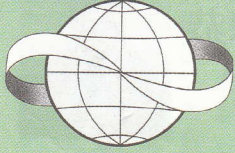


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第41号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
 東京都東村山市久米川町1-16-18
 Tel&Fax 042-395-9788

再生紙偽装事件の背景は！

前号でUSO(ウソ)800シリーズ取得者蔓延の話をしたが、製紙業界も例外ではなかった。

今回の再生紙偽装発覚は、長年に亘って環境活動に協力してきた市民を、十数年間もだまし続け、再生紙に対する不信感だけでなく、古紙回収事業そのものが環境に悪いかの印象を与える事態となった。ある製紙会社が、古紙パルプと化学パルプを特殊な条件と都合の良い計算方法で比較し、「古紙一〇〇%の再生紙を生産するほうがバールパルプで作った紙よりCO₂の排出量が倍近く多くなり、環境負荷が増加する」と説明した。古紙配合率一〇〇%の再生紙を生産廃止するための理由だった。その後、製紙業界は「グリーン購入法」の改正を国に強く要望した。この法律は、平成十二年五月に制定された『公的機関が率先して環境物品の調達を推進する法律』でコピー用紙などは、古紙一〇〇%配合の再生紙の使用を義務付けた。平成十二年頃は、回収古紙の大量余剰化時代で、その利用促進のために急ぎよ作られた法律だった。製紙各社は、その数年前から「環境に優しい再生紙」と銘打って、

製造と販売に乗り出した。

古紙配合率が高く、より白く、トラブルのない、上質紙に近い再生紙の生産にしのぎを削っていた。グリーン購入法では白色度を七〇%以下に制限していたが、各社とも八〇%以上保たせて一〇〇%再生紙の製造販売を続けた。

新年早々、再生紙の年賀はがき偽装に端を発し、「コピー用紙など印刷用紙の古紙混入率がデタラメでした。」と十七社の洋紙メーカーが頭を下げた。となると、どう考へても十数年間の偽装を隠蔽しようとの「グリーン購入法」改正の要求だったのでと疑いたくなる。日本再生資源事業協同組合連合会(日資連)が製紙大手八社に公開質問をしたところ、「古紙の使用が純パルプより環境に悪いとか、CO₂の排出量が倍近く多くなるなどは特殊な計算上の理論値であり、現実には古紙無くして日本の製紙産業はあり得ない」、大変な誤解を招いたと陳謝した。

偽装問題については、ユーザーの要望に答えるための過当競争の結果だったようだが、環境を売り物にしてきた製紙業界の欺瞞は決して許されるものではない。

各社とも更なる古紙の利用促進と環境貢献に努力をすることを改

めて約しているが、市民の不信感はまだに強く残っている。

古紙一〇〇%の再生紙を白色度八〇%まで白く保つには、上質の古紙だけで作らなければ不可能に近いが、六〇%程度(新聞紙並み)なら十分に量産が可能と言う。

今回の再生紙問題で、環境省は、グリーン購入法の見直しに各界のヒアリングを進めているが、グリーン購入法を安易に改定する前に、もう一度使用する側の対応と、コピー機などハード面での再検討を熟慮して頂きたい。

此の度、市民や行政の担当者からは、①このまま古紙回収を続けてよいのか。環境に悪いとは本当か。②回収古紙はすべて再利用しているのか。③なぜ偽装までして品質の良い再生紙を作っていたのか。などの問い合わせが、当組合にも日資連にも殺到した。

古紙と言うリサイクルの優等生が、長年に亘って回収コストも出ない低価格で引き取られ、ようやく海外でその価値を認められたとき、環境を逆手に取った偽装問題で、またとんでもない誤解を受けた。古紙の利用者であり、生産者責務もある製紙メーカーが、古紙に対する軽視や驕りが根本にあったのなら遣り切れない怒りを感じる。

直言拝聴

ウエスの笑えない話

古布・古着回収 綿' S 倶楽部 代表
 横浜市資源リサイクル事業協同組合 会長 中野聰恭
 ナカノ株式会社 代表取締役 社長



行政回収や集団回収活動によって集められた古繊維は、細かく手作業で130〜140種類に選別されてリサイクルされていますが、大きくは次の三つのRに分類されます。

1、Resource (再生繊維原料) 布

を元の綿状に戻すことを反毛といいますが、反毛綿にして紡績・紡織によりセーターや服地を作る原料にしたり、フェルトにして自動車部品や土木資材、建築用の防水シートなどに再生します。回収品の中のおよそ30%くらいです。

2、Reuse (再使用) 現在では回収品の中のおよそ50%位を占めますが、このアイテムが故繊維業界に登場するのは比較的新しく、1960年代の後半からです。最近では身近に古着のリサイクルショップを見かけますが、数量的には国内よりも中古衣料として90%以上が海外に輸出されています。

3、Renake (再利用) 回収品のおよそ20%位。代表的な物が工業用の雑巾、ウエスと呼ばれる物です。日本の高度成長期には繊維リサイクルの中心の商品で60〜70%がウエスとして再利用されていました。わが国の産業構造が重厚長大から軽薄短小に変わったり、ウエスを使うような作業現場が3Kと呼ばれて敬遠されたりで大きく落ち込みましたが、いまだにあらゆる産業の基礎的な分野でなくてはならない商品として活躍しています。

このウエスは日本文化の産物ともいえる非常にユニークな商品です

のでご紹介しましょう。先ずウエスという名称からです。

語源は英語のWasteから来た外来語が元になって、日本語のウエスに変化したところからカタカナで表記されます。回収された古繊維の中の木綿製品を原材料として、装飾品やボタン・ファスナー等の不純物を取り除き、工業用拭巾として使いやすいように四角く裁断カットされ、各種の工場や作業現場に届けられます。

次にその機能です。

おろしたての新しいタオルを入浴の時に使うと、最初は水分の吸収が悪く、肌に馴染まない経験をお持ちではありませんか、それは新しい木綿のタオル自体が脂肪を含んでいるからです。石鹼を使ってお風呂で使い込むうちに、石鹼が身体を綺麗にするのと同時にタオルの脂肪も徐々に落とします。木綿の脂肪が取れた分、水分の吸収率が高まり肌触りも柔く、肌身に馴染んでとても使いやすくなります。ですから工業用の雑巾であるウエスは、何回も何回もご家庭で洗濯され、洗い晒されて柔らかく吸収力の高まった清潔な木綿製品が、新品のタオルより使いやすく最適なのです。新品の綿からこの脂肪を工業的に取り除いた身近な

商品が、お化粧の時や怪我の治療の時に使う脱脂綿です。その名の通り脱脂した綿ですから最初から吸収力抜群と言う訳ですが、工業製品ですので当然脱脂するにはコストがかかります。一方、ご家庭でお子さんや旦那さんのために洗濯をするのは生活行為ですから、脱脂のための経済的なコストはかかりません。古いものが新しいものより機能が優れていると言う性質を使った、非常にユニークで経済的な商品がリサイクルウエスです。

そして文化的産物と言えるその生い立ちです。

ウエスは語源のWasteが示すごとく産業革命で機械化の進んだイギリスから、機械と一緒にメンテナ用品として日本へ入ってきました。当時一般家庭から回収システムを持たないイギリスではウエスとして紡績産業から出る糸屑(Waste)を使っていました。当時わが国では紡績産業が発達しておらず、したがってWasteがありません。そこで回収された古布をウエスとして使ったところ、大変に拭取り、吸収がよく返って喜ばれました。当時の日本人の衣装は平面裁断で仕立てられた着物ですから、形状的にも糸を解くと

四角い布に戻り、ウエスとして使うのには大変に具合の良いものでした。以来、資源小国の日本にあつて木綿の古着より作られたウエスは、アラブの石油同様に世界に冠たる日本のオリジナル輸出商品として、先進工業国のヨーロッパ、アメリカ向けに輸出され、戦前戦後を通じて貴重な外貨獲得に大いに貢献しました。

温暖多湿の亜熱帯モンスーン地帯の外れに位置するわが国では、今でも肌着、Tシャツ、浴衣など衣料品として多量に綿製品を消費しています。一方において、水質の良い水と洗淨力の優れた洗剤、洗濯機の普及、生活水準の向上、清潔好きなど国民性などの諸要件に社会的な省資源、省エネルギー、環境問題などの解決策としてリサイクル運動が高まり、ウエスに最適な木綿製品が大量に集荷されています。日本が先進工業国家に仲間入りすると同時に進行して国内需要が増大し輸出商品としてウエスの役割はなくなりましたが、ウエスは一般家庭で消費されたものが回収リメイクされて、そのまま再び産業の現場に商品として戻り、すなわち消費活動イコール生産活動という豊かな日本のリサイクル文化の産物です。

しかし、近年はグローバル化というのでしようか、この日本の文化が壊れ始めています。

これまで述べてきたように有効な繊維リサイクル品であるウエスですが、皮肉な事に企業の環境問題への取り組みが高まるにつれ、少々異変が起り始めています。

最近 ISO14000 とかゼロエミッションと言う言葉を耳にすると、思います。企業活動の環境に関する取り組みや、工場廃棄物をゼロにする取り組みのことです。今日の地球環境を考えると、大量生産、大量消費、大量廃棄の社会から決別するための企業の活動としては歓迎すべき行動です。しかしリサイクルウエスの現状から見ると、その取り組みを単純には喜ばません。企業から廃棄される廃棄物を産業廃棄物と言ひ、一般家庭より廃棄される廃棄物を一般廃棄物と言ひます。リサイクルウエスは家庭からの一般廃棄物の再利用商品、循環社会形成推進基本法でいうところの 3R, リデュース・リユース・リサイクルのリユース(再使用による延命)商品ですが、工場に使われた後の廃ウエスは産業廃棄物となります。同じリユース商品の古着は、再廃棄されても一般廃棄物のままですが、ウエスとし

てリユースされ再度廃棄される時は、産業廃棄物に名前が変わってしまひます。そして一般廃棄物と産業廃棄物の両方で廃棄物としてダブルカウントされてしまひます。

1、リサイクルウエスから紙ウエス・ケミカルウエスへの転換

ISO14000s の導入企業やゼロエミに取り組んでいる企業にとつて、産業廃棄物の減量はとても大きな命題です。廃棄物は重量や容積でカウントされるところから、廃棄物(使用済みウエス)を減らす場合、本体重量を軽い物に変えれば当然廃棄物の量は減ります。すなわちリサイクルウエスより軽い紙ウエスやケミカルウエスを使うことで、本来取り組むべき廃棄の量を減らさなくても廃棄物の総量は減った事になります。

2、リサイクルウエスからレンタルウエスへの転換

新品の布雑巾を貸し出して洗濯して使うウエスをレンタルウエスと言ひます。レンタルですから廃棄ウエスはゼロになります。それどころかウエスに付着した汚れや廃棄油も一緒にクリーニング工場に持ち帰ってくれますから、リサイクルウエスの廃棄物の量は減ることになります。

一見するとどちらも有効な廃棄

物の減量手段であり、環境貢献に効果があるように見えますが、どちらも新たな資源投入(新パルプや化繊、新雑巾、洗剤、水、溶剤)やエネルギー(紙の生産工程やクリーニングの際のエネルギー)の投入が必要で、かえって温暖化ガスの発生など環境に負荷を加えています。ISOが個々の企業の取り組みであるところから、生産工場だけの狭義のカウントでは

ゴミの減量化に役立って見えますが、本来取り組むべき廃棄物の量は全く変わらないのと、自社工場でカウントされていた廃棄物を、クリーニング工場の排煙や排水としてスラッジと、名目と廃棄場所を変えて廃棄物の移転が起きているだけです。そればかりか、これまで有効に活用されてきた家庭からの不要品(一般廃棄物)の木綿製品はその分行き場を失ひ、家庭からの廃棄イコール「ごみ」となり、社会全体のごみの総量や、エネルギーの総消費量を増やす結果となつてしまひます。皆さんはこのような企業の取り組みをどのような判断、評価されますか。リサイクルウエスからもこんな世界が見えます。ファイバーリサイクルつて面白いですよ!笑えませんが……。

第十五回TAMAとことん討論会開催

去る二〇〇八年二月二日(土)、東京学芸大学 小金井キャンパスにて、第十五回TAMAとことん討論会が開催された。今回は『これまで十五年・これからの十五年』多摩地域のごみ・リサイクルこれからの道筋』をテーマに、寄本勝美実行委員長のご挨拶の後、午前中は四名の講師のリレーによる基調報告講演会、午後は各分科会に分かれてのとことんディスカッション、交流会という形で行われた。

基調報告は、『資源リサイクルの検証』(日本再生資源事業協同組合連合会 紺野会長)、『多摩地域のごみ実態調査から』(岩谷祐治 東京市町村自治調査会調査部長)、『環境・リサイクル活動と市民的リテラクシーの育成』(成田喜一郎 東京学芸大学教授)、『TAMA が発信してきたもの』(江尻京子 東京・多摩リサイクル市民連邦事務局長)の四名の講演だった。

とことんディスカッションは、『多摩地域のごみ・リサイクル』これからの道筋』をメインテーマに、プラスチックリサイクル、生



多摩とことん討論会で
講演する紺野理事長

ごみリサイクル、ライフスタイルの三つのフレームに分かれて開催され、最後にまとめを行った。

日資連紺野会長の基調報告では、古紙輸出の現状や、再生紙偽装問題、古紙抜き取り問題を取り上げていた。

行政回収は導入時に業界の反対の声もある中始まったのだが、いったん始めたからにはとことんシステムを維持するように主張した。

自治体の財政難も解かるが、将来の市況はまったく不透明な中、行政対応に変化が生じていることを問題視し、地産地消の資源回収のシステムとして地域に定着した今、集団回収と行政回収の両立をしながら、地域の自治体と業者が

一体となって、システムの維持に努めるよう訴えた。

今後とも生活者、動脈系企業、静脈系企業、行政、教育研究者という5つの主体が「市民」という概念で連携した『五位一体(ごみいったい)』の理念のもととことんまでこの討論会を継続していくことが必要だと思ふ。

安全講習会開催

去る3月1日、小平市、柳泉園等リサイクルセンターに携わっているすべての従業員、組合員を対象に安全講習会を実施した。

昨年、報道された労働災害の事例を紹介しながら、その多くが基本的な安全管理、注意事項が忘れがちなことから発生していることを踏まえ、日常作業の安全への認識を常に持ちながら作業することを重点においた。

一つの重大事故の影にはたくさんは無傷事故や、軽傷事故(ヒヤリ・ハット)がある。

そうしたヒヤリ・ハットを続けることで、結果的に重大な致命的な事故がひきおこされる。

重大事故につながる兆候を全員が共有することで、未然に防ぐ努力の重要さを強調した。

また講習会では資源とごみの出し方、エコロジーに関するテストなどを行い、環境への理解を深めた。

「リサイクルセンターの作業」

主に一般家庭から排出される資源物(びん、缶類、ペットボトル、プラスチック等々)は収集されて、公共のリサイクルセンターに運び込まれます。そこでベルトコンベア上で選分が行われ、プレスされ、それぞれの生産工場に搬出します。センター内では搬入、搬出車両、フォーク等の作業車両が行きかい、コンベアやプレス機械がうなりを上げて稼動しています。油断すれば重大事故に繋がるので組合は安全に万全を期しています。



安全講習会の様子

「株あおぞら」
RPF (再生固形燃料) 工場見学

茨城県つくば市に昨年の十二月に出来たばかりのRPF工場「株式会社 あおぞら」(代表取締役社長 深山康生 製造能力 日量六十トン)を、東多摩組合員十八名で見学した。

(RPFとは、Refuse paper & plastics fuel の略称で、再生困難な廃プラスチックと紙、木材などで作られた固形燃料で、化石燃料に代わるエネルギー源である) アスファルトプラントメーカーの田中铁工(本社 佐賀県)が環境事業に参入するために作り上げた会社である。

工場はつくば市みどりの工業団地の中にあつてとてもきれいな工場である。



(株)あおぞら
RPF 製造工場



RPF 選別ライン

到着後、事務所二階の会議室にて総務部長の丸山様よりスライドを通して会社概要から工場概要まで細かく説明を受けた。

取扱廃棄物は産廃と一般廃の両方受ける事が出来るが、RPF原料に適さない生ゴミやアスベストなどは受け入れていない。

当工場の強みとして、処理能力九十六トン(日量)の再資源選別ラインがあるので、無選別の飲料空容器や、廃棄物を受け入れる事が出来る。

現時点のRPF原料は、紙くず

類が少ないので量とプラスチックが主原料になっている。地域的に量が多く発生するらしい。説明後工場内を見学させていた

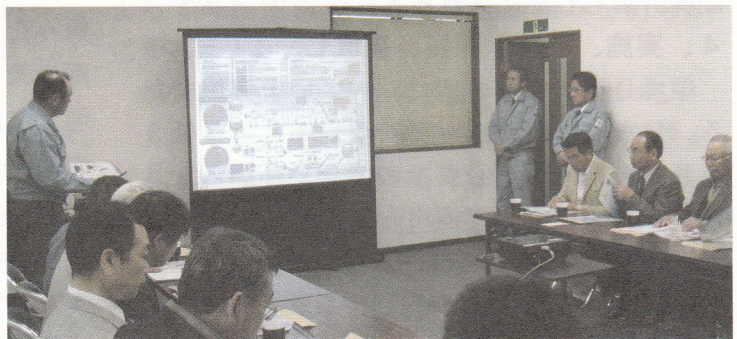
原料がまだ少ないらしく、選別ラインは動いていなかったが、RPF製造ラインは、量とプラスチックを混ぜながら作り上げていた。出来上がったRPFは、大きなかりんとうの様な形をしていた。

ここで製造されたRPFは、製紙メーカーに販売されている。石油や石炭が値上がりしているのので、需要はかなりあるらしい。

最後に、電話だけの見学申し込みを気持ちよく受け付けて下さり、雨の中を四名の社員の方から丁寧な説明して頂いた事に大変感謝申し上げます。「株あおぞら」を後にした。



出来上がったRPF



(株)あおぞらでの見学説明会にて

今回の見学はリサイクル不能古繊維がRPFの原料に適しているか調査する事も目的のひとつであった。

原料としては問題ないが、RPFの販売価格が安い為、引き取り価格も有料であり、焼却処分費用と大差ないこともわかった。

RPFはこれからの商品なので、値上がりとともに原料も今より安く受け入れてくれる様になると思われるが、買ってもらえるまでになる事を期待したい。

3、環境負荷の削減、取組、推進の計画を策定

以上の初期準備を踏まえて計画を立てる。最初に代表者が環境方針を定め、全社員に周知させる。この方針は自社の事業活動を踏まえ、環境経営に関する組織としての基本的枠組み、方向性を示す。憲法の前文に当たる。続いて、環境法規、条例を調べ、自社の事業活動が順法であるか、遵守するためにはどのような対策をとる必要があるかをひと目で分かりやすい一覧表を作成する。これまた手間が掛かる。大体、環境関連の法律といっても、どの法までが含まれるのか、自治体の条例のうちどの部分なのか、自社の適用範囲はどこまでカバーすればよいのか。人が日常生活で自分の一挙手一投足がどの法律にあっているかなどほとんど気かけないと同様に、いざ、自分の行為がどの法律に基づいているかなど考えていたら買い物ひとつ出来なくなってしまふ。そんなこと言ってもらえないので、四苦八苦しなから何とかまとめあげた。

次の段階は、いつまでに、何をどの程度削減するか、数値を設定する事、そして誰が何を、如何に行うかを定めることである。まとめたデータから、前年同月の電気使用量を今年度の同月は何%削減するか、1%か2%かなど。長期3年くらい先と短期1年ほどの目標を設定していく。水道、石油類、ガス等エネルギー関係。廃棄物削減量の目標値など。毎月、毎年、減らす数値をやみくもに設定するわけにいかない。これ以上削減すると事業が成り立たなくなってしまう限界値がある。この他、全社員に対する教育、緊急事態時の訓練計画も日程に入れる。

4、実施、確認・評価、見直し

環境目標までこぎつけ、いよいよ実施である。EA21の認証・登録を受けるには最低3ヶ月の実施期間が必要なので、7月から9月まで、計画に沿って運用を開始した。運用に先立って、環境管理責任者(会社の代表者兼任でもよい)、削減項目の管理担当者を決めた。9月末までの3ヶ月のデータを整理して、計画した目標が達成しているか確認作業を行う

目標が達成できない場合はその原因の調査分析が求められ、達成できなかった結果より、その原因を解明する事が重要である。

運用状況全般の報告書を代表者に提出。代表者は報告書、各担当者からの説明を受け、環境経営システムが有効に機能しているか、取組は適切に実施されているかを評価する。評価に基づき、次の実施への必要な指示を行う。

5、環境活動レポート提出、認証申請、 現地審査、そして認証・登録。

認証・登録を受けるには、申請書と今までの取組みをレポートにまとめ、地域事務局に提出する。事務局はその書類を審査、そして審査人が決まり、現地審査の日程とスケジュールが確定する。現地審査の日まで審査人から書類の不備の修正や内容の問合せなどのやり取りがあり。現地審査に。朝9時から5時ごろまで、代表者立合いで行われる。その後、審査人がIGESの本審査へ手続きを行う。審査中も不明な点があると書類の訂正や、提出を求められる。何やかやあって、現地審査から約2ヶ月後くらいに認証・登録となる。

始めてからおよそ1年、長い道のりだった。

まとめ、継続は力なり

EA21はISO14001の簡易版ではなく、内容はISO14001の規格をベースとしている。小規模事業所でも費用面以外にも取組みやすいように、工夫されている。事業者の環境経営の取組が環境省が策定しているガイドラインに適合していることを認証するものである。環境経営(環境マネジメント)システムとは組織が環境問題に効果的・効率的に取組む基本的な仕組みを云う。①環境方針を定め、目標、活動計画の策定(計画=P:Plan)②組織体制を整備して計画の実施・運用(D:Do)③実施状況の確認・評価(点検・是正=C:Check)④全体の評価と見直し(A:Action)。このPDCAサイクルを継続していくこと、継続的改善を図っていくことを目的としている。

その場、その時だけの取組みではなく、組織全体で続けていく事が大切なのである。



エコアクション 21 認証登録

認証登録組合員：当組合/ 日興紙業(株)/ (株)三栄サービス

申請中組合員：小畑商店

ISO14001 認証組合員：(株)久米川紙業/ JP 資源(株)

エコアクション 21 に取り組んだ動機

当組合及び各組合員は地域に根ざしたりサイクル事業を日常の業としていることから自らの事業所においても環境負荷をできる限り削減していく取り組みを推進するためのシステムを構築する必要があった。

2社の組合員がすでにISO14001を取得していたが、時間、労力もさることながらコスト面から、より安価なISOに替わるものを探した結果、「エコアクション21」を知り、その認証、登録に取り組むことにした。

「エコアクション21」聞きなれない言葉だ。

「エコアクション21」以下「EA21」と表現する。EA21の認証・登録は(財)地球環境戦略研究機関持続センター(通称IGES, アイジェス)が実施する。これまたおどろおどろしい、何やら宇宙戦争を思わせるような名称の機関だ。管轄は環境省。

認証取得へ向けて、道のり

1、取り組みは全社員で

組合員3社と組合本部、計4社で認証取得へ取り組みを開始した。

まず最初にEA21の地域事務局である東京中央(杉並区)に指導を申しこんだ。事務局から講師が派遣され、第1回目はEA21の概略の説明を受けた。その後はおよそ1ヶ月ごとに前回に課された課題を遂行し、各社がその成果を報告し、講師の指導を仰ぎながら、完成していくという方法で一歩ずつ進めていった。

まず第1に経営の代表者が全社挙げてEA21に取り組むことの決定と決意を全社員に表明することから始まる。全社員にだ。一部の経営者やEA21取得に向けた実務者だけが心得ていればいいという事ではない。

これから後の作業となる環境方針、目標、活動

計画、計画の実施、取組み状況の確認、見直しなども常に全社員に報告し、現況を共有することが重要なのである。

これを怠ると、後々大変なことになる。

2、環境負荷と取組みチェック

とにかく、自らの事業活動が環境にどれくらい負荷をかけているかを数字で表す必要がある。電気、水、化石燃料の使用量、廃棄物の量など。1年前からの各量を把握するのだが、これが思ったより簡単ではなかった。

経理伝票から金額は分かるが使用量までは記入がない。そこで、電力会社、水道局へ問合せて判明した。ガソリン類は何箇所かのスタンドで給油していたので領収書の束をひっくり返して調べた。廃棄物についてはデータが無く、把握出来ない。経費は分かるが、使用量の把握が杜撰であった事に気付かされた。

それ以後は使用量データ化に着手した。廃棄物も外部処理する場合はそのつど計量することとした。

次に現時点で自社が環境へどのような取組みを行っているかを把握すると同時に今後どのような取組みに重点を置くのか決める。業種によって異なるが、かなり細かい取組みチェック表があって○、△、×で記入するのだが、各記号で点数化されるようになっている。これによって今後実施すべき具体的取組みを明らかにすることになる。

例えば、「蛇口に節水こまを設置している」「アイドリングストップ等運転方法の配慮を行っている」など200項目以上チェックする。これを記入すると、自社が環境への配慮がどの程度なのか良く分かり、なかなか面白い結果が出る。欲張って沢山取組めばいいわけではない。自社の現状をよく把握しなければ。

地方公共団体は 官公需適格組合の積極的活用を

当組合は関東経済産業局より官公需適格組合の継続証明を受けることができた。この証明は3年毎に更新することになっており、所轄官庁の厳格な基準を満たしていることを証明するものである。国及び地方公共団体は官公需発注に際し適格組合を積極的に活用するよう定めている。以下官公需法の要旨、最近まとめられた意見を掲載する。

官公需適格組合は、所轄官庁(経済産業省・中小企業庁)より厳しい審査を得て、官公需の受注に対して十分に履行できることを証明された組合である。

証明基準には多くの項目があるが、例えば、次のような内容である。
組合運営が関係法令を遵守し民主的に行われていること。組合の共同事業が組合員の協調裡に行われていること。共同受注した案件に関し役員と、担当組合員が連帯して責任を負うこと。
検査員など検査体制が確立されていること。組合運営を円滑に遂行するに足る経常的収支があること。

官公需適格組合を始めとする事業協同組合等の受注機会の増大を図るものとする。

国や地方公共団体は発注に際し、積極的に官公需適格組合の活用を促している。

国は、地方公共団体に官公需適格組合制度の一層の周知につとめる

国と地方公共団体、官公需適格組合の担当者会議で多く指摘された事項として、地方公共団体は適格組合制度に対しての認識が薄い。案件の発注担当者(課、部署)によっては、この言葉(適格組合)さえ知らなく、管財課(財務部門)と発注担当部署の連関が少ないところも多い。と指摘されている。県外企業の落札の増加など、地元中小企業の振興、育成の意識が欠けている。地元の適格組合の活用に努めるべきである。

適正価格による発注

発注に当たっては需給状況、原材料価格の実情等を勘案し、適正な価格での発注に配慮するものとする(官公需の中小企業者の受注の確保に関する法律)。前述の会議において、最近、役所は発注案件に対して、市場原理的発想で単に安ければよい、高く売ればよいという風潮になっている。過渡の低価格や平均相場以上の異常な売払い価格など一時的な落札価格に目を奪われている。このことは品質面の低下、事故の発生、地元中小企業の経営の悪化につながると懸念される。

地域の社会貢献活動を評価すること

官公需適格組合行動憲章に曰く。適格組合は環境問題に十分な配慮と対応に努める。地域社会とのコミュニケーションに努め、融和し、積極的な社会貢献活動を展開する。当組合もエコアクション21を取得し環境対応のシステムを構築している。また、中学校の総合学習の職場体験の積極的な受け入れ、市民団体のリサイクルに関する催しに参加、各市の環境フェアへの参加、集団回収団体との交流など、地域に根ざした活動を行っている。

資源リサイクルの最新事情報告

（社）東リ協会・リサイクルフォーラム開催

去る三月四日（火）午後五時より、東京・日暮里の「ホテルラングウッド」で、（社）東京都リサイクル事業協会主催のリサイクルフォーラムが、「主要再生資源の最新事情」（輸出動向と国際マーケットを展望する）というテーマで開催された。

①古紙の輸出動向と今後の展望

（三ツ矢産商株）

代表取締役 杉山正幸氏

日本の古紙輸出と中国の古紙リサイクル事情について解説。二〇〇七年の日本の古紙輸出量は、約三八四万三千と八年ぶりに前年（約三八八万六千）比で減少した。一方、中国では、年間三〇万t〜五〇万tの生産能力のあるマシンを導入して、紙・板紙の生産量の増加（二〇〇六年で、前年比約九〇〇万tの増加）を図ったり、古紙の回収率が二〇〇六年には三四・三%上昇したりと、これまでの古紙輸入型から、国内で回収や生産し利用する内需型に切り替える傾向が出てきている。

②廃プラスチック流通の最新動向

（株）大都會商會

専務取締役 和田孝雄氏



リサイクルフォーラム
で挨拶する畑会長

（株）大都會商會は、プラスチック・金属・古紙・ペットボトル等を、国内の樹脂メーカー・製造メーカー・産廃業者・資源回収業者等から買取り、国内の自社工場で選別・ペレット化・梱包等の中間処理を行った上、中国に輸出し、中国国内の自社工場でリサイクル化（再生商品化）している。当社はバーゼル条約を遵守しながら、リサイクル事業を行っているが、バーゼル条約下では、原料を輸出するに当って、経産省・税関に事前申告を行ったり、輸出原料の厳しい検査を受けたりしている。中でも大変なのは、プラスチックの原料を混ぜることなく、素材別に分けて輸出しなければならない等の

苦労がある。

③古繊維リサイクルの現状と展望

（ナカノ株）

代表取締役社長 中野聰恭氏

「につぼんの現場―どこへ行くあなたの古着―世界に続く再生ライン」(NHK総合テレビ二〇〇八年一月十七日(木)放送)のVTRを觀賞しながら、古繊維リサイクルの現状について説明。

一般家庭から出される古着は、現在の古繊維リサイクルシステムが確立するまでは、まだ使えそうなものが九割もありながら、ほとんど燃えるごみになっていた。システムが確立した現在、古繊維リサイクル工場に運びこまれた古着は、一三〇種類に分類され、八割〜九割は海外へ輸出(年間約八万t)され、一割〜二割が工業用ウエスに再商品化されて国内で利用されている。また最近では、全国各地のデパートや大型スーパー等が、洋服売り場で古着の無料引き取りサービスを始めたため、そこから工場に入ってくる荷物が急増している。今後の古着との向き合い方としては、今までと同じ状態で自治体の回収の受け皿を担うのは困難であり、回収したものが国内でもっと再生されて利用されるように別ルートの開拓も必要なのでは

ないかと考えている。

④東京都の環境リサイクル政策

（東京都環境局）

廃棄物対策部長 森 浩志氏

現在、東京都では、廃棄物対策として、プラスチックのリサイクルに力を入れている。東京都内の家庭から排出されるプラスチックは現在約五〇万tになるが、そのうち再生処理されているのは約一七tにすぎない。このままでは、最終埋立処分場の寿命がこの先三〇年程度でつきてしまう。東京都の廃棄物審議会でも、プラスチックは「埋立不適物」として指摘され、マテリアルリサイクルの徹底が求められている。そこで東京都では、プラスチック分別収集計画を実施して、市区町村の回収事業の支援を行ったり、産業廃棄物として排出される事業系プラスチックを平成二三年度までに埋立ゼロにするための取り組みを検討したりしている。この他にも、東京都では、リサイクルの推進と環境施策の融合や、リサイクル処理業者の育成と先進的な廃棄物産業の展開を目的とした「第三者評価制度」を取り入れたり、他県との連携を強化して、近隣八都府市の協議会を立ち上げるなど、廃棄物の越境政策にも取り組んだりしている。

第十五回通常総会開催

去る五月九日(金)東京都中小企業団体中央会の労働課小林課長様、浜本様兩名の御出席の下、組合本部にて第十三回通常総会を開催した。

まず、司会の青年部福田の開会宣言の後、萩原副理事長の開会の辞、紺野理事長の挨拶を経て、原口理事を議長に選出し、議事の審議に入った。

審議では平成十九年度事業報告・決算関係書類の件、平成二十年度活動方針・収支予算案がいずれも満場一致にて承認された。

尚、本総会は役員改選期に当たるが、紺野理事長以下全役員の留任が決まった。議事の審議終了後、来賓の東京



通常総会で議事を読み上げる吉浦専務理事。(左)は原口議長

都中小企業団体中央会・労働課小林課長の挨拶、古川副理事長の開会の辞をもって総会は無事つつがなく終了しました。

〔紺野理事長挨拶〕

当組合は本年度で創立十五年目を迎えた。

この十五年間、組合は、ほとんど変わる事のない組合員で、資源回収の費用も出ないような厳しい時代を支え合いながら、充実した事業活動を継続してきた。

この間、東京都中小企業団体中央会の多大な御指導の下における官公需適格組合の取得や、エコアクション21の認証等、組合運営の拡充を図ってきた。

当組合は、これからも十五年間の運営実績と組合員同士の助け合いの心を大切にし、これを乱さないように更なる結束を固めていきたい。

〔東京都中小企業団体中央会・労働課小林課長の挨拶〕

本日は、第十五回通常総会の審議を全て滞りなく終了され、誠にめでたうございます。

現在、当中央会では、東京都内で約二〇〇〇の組合とお付き合いをさせていただいており、また私

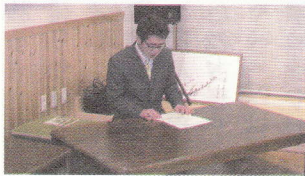
自身も三〇年間で、様々な組合活動を見てきておりますが、貴組合の充実した長年の活動には感銘致しました。

貴組合のように、十五年間組合員が変わらず、後継者の問題も少ない組合は他にはないのではないかと思います。これは、組合の基本原則である相互扶助・自助努力・公的な事業等がうまく調和した動きであり、今後もこの動きを止めることなく、更に頑張ってくださいと思います。

第6回青年部総会開催

去る四月一九日(土)、久米川小千谷にて第6回青年部通常総会が開催された。

藤野理広政権も一期二年を過ぎ、今回の総会は役員改選期にあたる。昨年度は、青年部の創立五周年記念セミナーや中国語講座、労務管理講座の他、リサイクルフェア



青年部総会で議長を務める福田青年部員



第6回青年部総会にて

の参加や職場体験学習の受入など、勉強会や市民との交流を行ってきた。

本年度は、引き続き業界の実務や経営に関する勉強会や、各種イベントへの積極参加、組合ホームページのリニューアルなどを手がけていきたい。

総会は、水野幹事の司会の下肅々と進行し、議長に選ばれた福田幹事のまるで台本を読んでいるかのようなスムーズな議事進行により、全議案が満場一致を持って承認された。

役員改選は吉浦亜矢子氏が監査に推薦された他は留任となった。第二期藤野政権がより積極的かつ前向きに青年部活動にまい進していくるよう、懇親会や懇親会を通じて部員の結束をより一層固めていきたい。

未来を担う中学生
と触れ合って
東村山市立第二中学校
職場体験学習受入

去る二月六日から八日の三日間、東村山市立第二中学校の職場体験学習があり、当組合では、奥山商店、日興紙業商事、三栄サービスの組合員三社で受入を行った。

一年生の男子六名と女子六名の十二名を三社に迎えて、朝の点呼に始まり、トラックに同乗して古紙回収の手伝いから、ヤード内での選別作業などをやってもらった。普段何気なく出している資源がどのように回収され、選別加工されどこに運ばれていくのか、しっかりと勉強してもらいながら、運んだり積み込んだりの作業をしてもらったが、生徒さんにはかなりの重労働だったようだ。

最後の日に、組合の二階で勉強会とリサイクル実力テストを行ったのだが、テストの結果は思いのほか良くなかった。先生の教え方が悪かったかなと少し反省をした。以下後日組合に届いたお礼状から一部抜粋して紹介させて頂く。

東多摩再資協の皆様こんにちはは職場体験では大変お世話になりました。担当の紺野さんはじめ、職場の皆様親切にしてください初めてトラックやパッカーに乗せてもらい楽しく、そして厳しくもあり、充実した三日間でした。重労働をするのは初めてで、市内をトラックで回り資源などを集めるのは思っていたより大変でした。しかし職場の方たちは、それをなんでもないように重いものを次から次へとトラックに積み、僕は「やつぱプロは違うなあ」と思いました。僕が三日間一番心に残っていることは、いろんな方々とふれあったことです。協力して資源を運び色々なことを学んだと思います。あつという間の三日間でしたが、ぼくにとっても貴重な学習が出来た毎日でした。

お忙しい中、僕たちの学習のためにご指導下さいまして本当にありがとうございます。また、三日間コーヒーやパンをご馳走していただきありがとうございます。これからもどうぞお仕事頑張ってください。お元気で。さようなら。

大変な仕事だと言うことは分かってもらえたのかな？パンとジュースであんなに頑張っていたら、こちらこそ今後とも宜しくお願ひ致します。

ただ、末尾の文章が、全員『お元気で、さようなら』だったのが、少しさびしいような気がした。二中といえ、うちのご近所だし、全員家も近所だったので、また気軽に遊びに来てもらえればと思う。それに、我々のお仕事は、会う人全員お客様だから、みんなもお客様だし、将来、リサイクル事業に興味を持ってもらえたら、いつでもまた来てもらいたいと思う。これからは職場体験受入を通じて、市民の皆様とのふれあいや、社会貢献をしていきたいと思う。

(青年部 紺野)



奥山商店での選別作業の様子

トイレットペーパー
「フューメラン」
(65m巻き・100個入り)
本年4月1日より値上げになりました。
原油・原材料等の高騰により、値上げせざるを得なくなりました。
1ケース3,000円(消費税・配達料込み)です。
皆様の御理解の程宜しく御願ひ申し上げます。
※注文は1ケース単位です。
※尚、配達地域は、以下の地域に限定いたします。
〔小平市・東村山市・東久留米市・清瀬市・西東京市・東大和市〕
ご注文は当組合までお願いします。TEL&FAX : 042-395-9788

●環境カウンセラーに合格!

紺野理事長が、環境省の環境カウンセラー(市民部門)に合格、本年四月一日に登録された。

●ECCO検定試験に合格!

ECCO検定試験(環境社会検定試験)は、東京商工会議所の主催で、環境に対する幅広い知識を持ち、率先して環境問題に取り組み「人づくり」を目的として、二〇〇六年から開催されています。当組合では、組合員等のメンバー七人が、二〇〇六〜二〇〇七年にかけて三回に分かれて受験し、見事合格しました。当組合は、ECCO検定試験の合格を無駄にする事なく、今後とも環境問題やリサイクルについて、地域市民の皆様にも適格にアドバイス出来るよう務めてまいります。

〔ECCO検定試験合格者〕

- 小畑和夫・吉浦高志・紺野琢生
- 福田雄二・若林茂治・芳野俊二
- 柿崎正則

行事・行動

【平成二〇〇八年二月】

- 二日：多摩とことん討論会
- 紺野理事長基調講演
- 神奈川資協六〇周年式典

・東資協新年会

- 五日：(社)東リ協会・再生紙委
- 六日：東村山二中職場体験学習
- ・第二回労務管理セミナー
- 七日：総務委員会
- 一日：定例理事会
- 二日：小平市廃棄物減量審議会
- 四日：(社)東リ協会・再生紙委
- 九日：(社)東リ協会Rマーク委
- ・小平RC安全会議
- 二〇日：(社)東リ協会理事会
- 二六日：東資協・業務委員会
- ・青年部会議
- ・第三回労務管理セミナー

【三月】

- 一日：従業員安全講習会
- 四日：(社)東リ協会・セミナー
- 七日：西東京安全会議
- 八日：関資連・理事会
- 一〇日：(社)東リ協会事業対策委
- 一日：定例理事会
- 二日：古紙C理事会業務委員会
- 四日：東久留米安全会議
- 五日：日資連理事会
- 六日：清瀬ごみともだち懇談会
- 八日：小平RC安全会議
- 一九日：(社)東リ協会予算総会
- 二一日：環境省再生紙ヒアリング
- 二二日：新潟県資連・総会
- 二三日：日本鉄源協会・理事会
- 二五日：西東京安全会議
- 二七日：(社)東リ協会事業対策委

二八日：(社)東リ協会Rマーク委

三一日：つくば市「あおぞらリサイクル施設」視察

【四月】

- 七日：西東京市・集団回収市民団体との懇談会
- 一日：定例理事会
- 四日：広報委員会
- ・青年部会議
- 五日：日本製紙連合意見交換会
- ・環境省・ヒアリング
- 一六日：(社)東リ協会理事会
- 一七日：小平RC安全会議
- 一八日：中央会・役員会
- 一九日：日資連理事会
- ・青年部・第六回総会
- 二三日：古紙C業務委員会
- ・西東京安全会議
- 二四日：総務委員会
- 【五月】
- 七日：広報委員会
- 九日：理事会・第一五回総会
- 一四日：(社)東リ協会多摩B会
- 一五日：中央会・総会
- ・小平RC安全会議
- 一七日：東資協・総会
- 一八日：日資連・総会・大会
- 二二日：古紙C業務委員会
- 二四日：東村山市・集団回収市民団体との懇談会
- 二五日：環境フェア清瀬
- 三〇日：(社)東リ協会理事会総会

編集後記

今号に御寄稿下さいました中野様、ウエスの現状を解りやすく説明して頂き、大変ありがとうございました。また機会がありましたら中古衣料の輸出の現状を教えてくださいたいと思います。気候と文化の違いでどんな中古衣料が好まれるか気になります。

古紙偽装問題で製紙メーカーの方々、グリーン調達法の見直しの件で環境省の担当の方々と、我々の全国組織である日資連の一員として会合に参加する事ができました。この時ほど組合の重要性を感じたことはありません。最前線で働く組合員の声を、また業界の現状を、地域社会、政府に正確に届けていくには、正しく強い組合が必要だと思えます。普段は各市リサイクルフェア、環境イベント、理事長の出張講演など、ボランティア活動の多い組合ですが、大事な組合です。これからも頑張ってください。

エコ検定堂々の合格です。参加組合員もほとんど合格しました。これからはエコの東多摩と呼んで下さい。読者の皆さん、お体を大切にしてください。分別に頑張ってください。